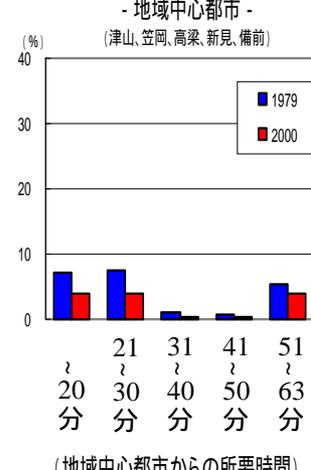
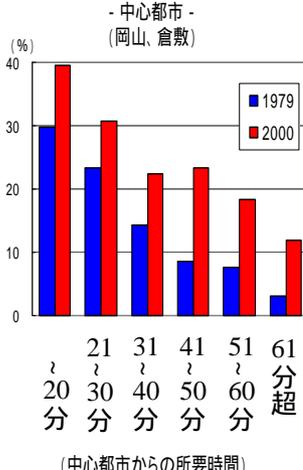
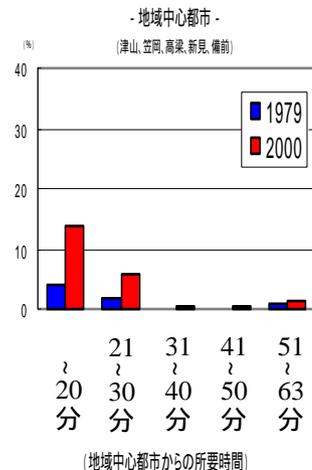
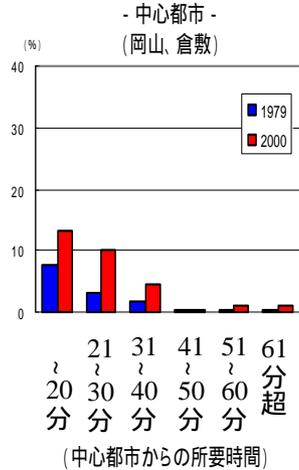


指標：生活行動者の中心都市への時間距離別にみた行動者比率

岡山県では、生鮮食料品などの日常的な買物行動では、中心都市・地域中心都市ともに周辺部(30～40分圏)からの拠点性を高めている。映画・レジャーなどの非日常的行動では、地域中心都市の拠点性が薄れる一方、中心都市の一時時間圏及びそれ以上の圏域からの拠点性が顕著に高まっている。

生鮮食料品

映画・レジャー等



(出典) (財)岡山経済研究所「おかやま生活行動圏20年の変遷と展望～岡山県民の生活行動圏調査結果より～平成10年5月」、「岡山県民の生活行動圏-第9回調査結果報告書-平成13年3月」、和気倫弘・谷口守・阿部宏史「地方部における個人交通行動の長期的変遷と課題：土木計画学研究」講演集、No.26、2002」及び国土交通省総合交通体系データベース(NAVINET)をもとに作成。

(注) 和気・谷口・阿部の区分に即して岡山県内において岡山市(627千人：2000年国勢調査による人口、以下同様)、倉敷市(430千人)を中心都市とし、津山市(90千人)、笠岡市(59千人)、高梁市(25千人)、新見市(25千人)、備前市(29千人)を地域中心都市として、それぞれ中心都市と地域中心都市を主な目的地とする岡山県内の各市町村の行動者数(中心都市間、地域中心都市間の行動者数を除く)をNAVINET(道路モード)の所要時間区分別に集計し、各所要時間区分別の18歳以上人口に占める比率を示したもの。

行動者数は(財)岡山経済研究所の資料による。なお、当該資料における行動者数とは、18歳以上を対象とするアンケート調査の各市町村別の回答数を各市町村の18歳以上人口に応じて引き延ばしたものである。